



島の学校事情

2005年が明けて、早くも1ヶ月が経ちました。今年は、祝島に大きな変化があります。残念ながら中学校が3月で休校になります。一方で、嬉しいことに、休校していた小学校が4月から新1年生を迎えて再開校することになりました。

祝島では以前から学校行事などを地域と一体になって行ってきましたが、これからはより一層、地域と学校の協力体制を強くしていく必要があると思います。祝島ネット21としても、学校教育や行事にできる限り協力していきたいと考えております。



新春の陽光を浴びる祝島小の白クマの池。
まもなく新入生の元気な声が響く。

冬の風物詩

1月から2月にかけて、冬の季節風が強くなると、サエル（サヨリ）や、かんぴょう（切干大根）を干している風景が島のあちこちで見られます。今年はヒジキも成長が早く、例年より早く解禁になりました。



今年度の役員が決まりました

先日行いました役員人事の投票の結果、2005年度の役員が下記の通り決まりました。1年間よろしくお祈いします。

- | | |
|---------|-----------|
| 祝島ネット21 | 2005年度役員 |
| <会長> | 木村 力 |
| <事務局長> | 國弘 秀人 |
| <会計係> | 重村 通子 |
| <監査> | 重村 芝郎 |
| <監査> | 橋部 好明 |
| <副会長> | 國弘 秀人(兼務) |

目次

島の学校 / 風物詩 / 役員	1
祝島の歴史を探る	2
魚・さかな・肴	4
会員リレーコラム	5
祝島懐かしの料理	6
祝島大好き人間	7
祝島中・野球部再創設史	8
花*花クイズ	9
Let's learn English in Iwajima!	9
フォトコンテスト受賞作品	10
活動紹介 / お知らせ & 募集	12



祝島の昔の遊び「ゴムとび」
絵・しげむらみちこ

<連載> 祝島の歴史を探る(12) ~ 維新の志士たちと祝島 ~ 蛭子 葉子

関西で仕事をしていると山口出身ということで話のきっかけに明治維新の話がされることが多く、その関心の大きさには驚かされます。同級生の松村君(こんなあらたまった呼び方はこそばゆい)の話では、私たちが教わった先生方もそれぞれの身近な維新史を語ってくれたそうですが正直よく覚えていません。松村君曰く「女子はそのたびにいちいち感動していたくせに何も覚えてない、いいかげんなやつらじゃ。」と・・・。そんな私も担任だった中尾先生が卒業式の日、いずれ親元を離れて島を出ていく私達に話してくれたことだけはよく覚えています。広い世界でたまたま祝島に生まれ、両親や教室にいる仲間と出会ったこと、先生自身がこの島に来ることになった縁の不思議と大切さを話された後、吉田松陰の永訣の書といわれる手紙の一節を詠んでくださいました。

“親思うところにまさるおやこころ

けふの音つれ何ときくらん”

先生の意に沿う生き方ができたかどうかはわかりませんが、このとき聞いた言葉がいつも自分の進むべき道を示してくれたように思います。

知ってみると松陰の言葉どおり維新の「志士」はみな親思いです。そして「道を明らかにして功をはからず、義を正して利をはからず」の松陰の教えどおり、志に向かい誠実に生きようと努力しています。昨年大河ドラマ「新撰組！」で脚本を書かれた三谷さんは、敗れた新撰組にも正義があり、隊士ひとりひとりにも其々の志があったことを描こうと苦慮していましたが、勝者となった長州の「志士」達とて同じです。維新の立役者となった高杉晋作と対立し処刑された赤根武人や、萩の乱を起こした前原一誠にも彼等なりの正義があったのだと思います。そのことは明治維新が近代日本の起点であった半面、戦争へと向かう悲劇の始まりであったという複雑な歴史に表れているのではないのでしょうか。



我が家に残る船札(御幣)

今回はその「志士」達が活躍していた頃の祝島について少し考えてみることにしましょう。

我家には廻船業を営んでいた当時の船札(御幣)が保管されていますが、これを父から見せられたときは深い感銘を受けました。船札にはこう書いてあります。

“嘉永第七年象頭山 ??? 奉修不動明王護摩供二夜三日海上安全祈 二月吉良日金光院”

(???は船の名前だと思うのですが読めません)

嘉永6(1853)年、ペリーが浦和に来航し、翌嘉永7年には日米和親条約が締結されました。松蔭が密航を企てたのもこの年で、長州藩の大政治家である村田清風が松蔭の行動に対し、「これがすべての始まりじゃ」と言ったように、これから日本が大きく変わろうとしている中にまさに船出しようとしていたのです。

船を新しくすると第一に金比羅様を拝み、次に宮島様(漁船が多い)、周防灘では一般的に室積の普賢様が拝まれ、そこでお守りと御幣を受け祀ったそうです。札には「象頭山」「金光院」という文字が書かれていることから四国の金比羅様にお参りしたものだと思われます。父の話では柳井の町屋にもこれと同じものがあつたそうで、当時も船乗り達は結構自由に海を行き来していたようです。船札と一緒に小さいけれど船筆筒も残されています。縁に手の込んだ装飾があり大きな鍵がついています。江戸時代、海上航路において藩外の通行には「船往来手形」が必要でその大切な札をこの船筆筒に保管していたそうです。父の話では石丸左馬頭の子孫で鰯網の網元であった「アタラシヤ」にはもっと大きくて立派な船筆筒が最近まであつたそうです。

この頃の瀬戸内海は北前船の活躍によりたいへんな賑わいをみせ、島には回曹業を営む家が何軒もありました。魚を運搬するのが主だったようです。そこから



船筆筒

大きな財をなした家や反対に没落した家もあり、この当時の栄枯衰退物語を書けばきりがありません（今度藤本さん、書いてください）。陸上より海上輸送が主で、徳山からは九州や四国のみならず近隣の柳井などにも定期航路がありました。富来隆氏が書かれていたように島には上関に通う魯舟があった頃でしょうか。財をなした下関、三田尻の廻船問屋や豪商は維新の「志士」達にも多くの援助をしています。北前船の寄港地であった上関は今の風情からは想像できない（当時の）都会だったそうです。奇兵隊を結成した高杉晋作も上関にやってきて *“三千世界の烏を殺し ぬしと朝寝がしてみたい 何をくよくよ川ばた柳 水の流れをみてくらす こと上関や 棹さしや届く なぜに届かぬわが思い”* というノーテンキなドイツを作っています。祝島からも“蛭子権作”と名前は不明ですが洲本出であろうと思われる方（米屋にその時の写真があったそうですが現在は所在不明）、二人が奇兵隊に参加しています。先に書いたように寄せ集めの奇兵隊では内戦も多く倉敷焼討事件の首謀者である立石孫一郎が祝島に逃げてきたともいわれています。（祝島沖に停泊、祝島に滞在の二説有）支援するパトロンでもいたのでしょうか。

このように維新は私達にとっても身近な出来事です。祝島沖を行き来する外国船や軍艦を当時の島の人

たちはどのような思いで眺めていたのでしょうか。その興味はつきません。

祝島は江戸末期から昭和初期にかけて激動の時代でした。農業主体であった産業が次第に漁業に移行し昭和初期には鰯網の最盛期を迎えます。その頃建てられた建築的にも価値ある大きな家屋が今でも残っています。畑作中心であった農業も田や蜜柑を作るようになったことで生活が豊かになり、島も大きく様変わりしていきました。それはまさに激動というにふさわしい変化であったろうと推測されますが、その変化についてはマーチンさんが近い将来、すばらしい本にしてくれるでしょうから楽しみに待つことにしましょう。中尾先生流に言えばマーチンさんが遠い異国の地からこんな偏狭の地へやって来てきたことも縁でしょう。さらに地元の私達さえできないような調査活動を、目標に向かって精力的こなすマーチンさんの真摯な姿こそ先生が私達に伝えたかったことなのかもしれませんね。（反省）

参考図書：河上徹太郎「幕末維新随想」

宮本常一 「海的生活誌」

奈良本辰也「日本文化論」

加藤貞仁 「海の総合商社 北前船」



大島郡の三大巨匠（勝手に呼ぶ・他ふたりは宮本常一・星野哲郎）のひとり奈良本辰也さんの寄贈した書籍を保管する京都造形大学・芸術文化情報センター。歴史や山口関連の書籍が多く、併設のカフェは安く見晴らしがよいのでおすすめ。芸術系の大学だけあって掲示板に貼ってあるインフォメーションを眺めるだけでも楽しいですよ。



須磨に残る廻船問屋の別荘。

阪神大震災で全壊と判定された建物ですがジャッキアップして見事に再生しました。腰屋根にある茶室から眺める海は祝島にも繋がっていて、島から大阪に荷を運ぶ廻船がこの港に立ち寄り、ここで接待を受けたかもしれないと想像が広がります。それにしても神戸の街は一見、10年前の風景が夢だったかのような復興ぶりです。

アナゴは、子供の頃、よく『かかり釣り』のエビ網ののっていました。延縄でも獲れていました。

少し前にはアナゴ籠でもよく獲れたようですが、この頃は、少なくなり、エビ網にもあまりのらないようです。

アナゴといたら『ツケヤキ』です。ツケヤキのたれは砂糖醤油で、焼いては漬け、焼いては漬けすると段々色濃く味濃くなって、とても旨いものです。といっても私は最近このアナゴのツケヤキは食べたことがありません。アナゴによく似たトウヘイでツケヤキをして食べています。トウヘイは標準名はクロアナゴというようです。

図鑑にはあまり旨くないとあります。それはそうでしょうが、「アナゴが特別旨いということで、トウヘイもまあ旨い」と思いながら食べています。我が家ではなかなか評価は高いです。七輪と炭火とテキがツケヤキの3点セットです。これがあるとトウヘイでも旨い。

湯かけもしてみました。酢味噌、梅肉などで食べます。八モには負けますが、まあまあいけます。

なお、祝島で言うアナゴはマアナゴで薄い茶色で少し透明感があります。トウヘイは黒紫で、アナゴより

大きくなります。アナゴはエビ網にのるように砂泥底に住み、トウヘイは夜にウゴで釣れることがあるように、石の間や岩場に住んでいます。トウヘイは、夏のチン釣りに時々釣れることがありました。夜行性です。



やはり炭火がベスト



ツケヤキ



トウヘイの湯かけ



トウヘイ

会員リレーコラム(12) ~松村 博さん~

このコーナーは「祝島ネット21」の会員の皆さんに、自己紹介を兼ねて簡単なコラムを書いていただくコーナーです。第12回目は、個性派・松村氏の登場です。



「松漁丸」と私
(勤一(父親)ではありません・・ひろしです。)

『ひとりもののひとり言』 松村 博

やいや、どうもならんのうー 秀人は・・・。

皆さん、こんにちは。8区の松村と申します。とうとう秀人編集長にかり出されました。なんにもとりえがなく、このような事が苦手なもので、たいがたあんですが、こ⁰う⁰ゆ⁰う⁰機⁰会⁰も⁰な⁰い⁰と⁰思⁰い⁰ま⁰す⁰の⁰で⁰、自⁰己⁰紹⁰介⁰と⁰祝⁰島⁰へ⁰の⁰想⁰い⁰を⁰書⁰か⁰せ⁰て⁰い⁰た⁰だ⁰き⁰ま⁰す。

現在私は、大阪茨木市にひとり住んでいます。会社は北区の大淀にあり、塗料の製造を行っています。

「ほいたら、うちの風呂場を塗ってくれんさい。」とか、祝島の人によく頼まれますが、そのような技術はありません(笑)。

昭和36年に祝島で生まれ、中学を卒業するまで祝島で育ちました。私達が住んでいた頃は、まだ島にもたくさんの人たちが住んでおられ、活気もありました。(おもしろい)名物のじいじいさあ、(顔が)怖ろしいおじさん、(上半身)夏はハダカのばあばあさ⁰あ⁰、き⁰な⁰り⁰い⁰の⁰兄⁰さ⁰ん⁰ etc. 個性豊かで楽しかったです。じいじいさあには、昔の話、戦争の話などを聞かしてもらいました。おじさん連中には悪いことをせて、よく叱られました。「ひろし、チ ボウ太おなったか?」とか、会うたびに聞かれ、恥ずかしかったですね。ばあばあさあには、「うら!せえがえいのや」

「勇まし、勇まし」と励まされ、元気をもらいました。今想えば、祝島人独特の教育(?)だったのではないかと思います。花田さんがコラムに書いておられましたが、「強い精神力」、「前向きな生き方」を親だけでなく、周りの方々から教えてもらったような気がします。

そして祝島の自慢は、なんとと言っても海の幸(タイ・ハゲ・サエル etc.) 山の幸(みかん・びわ・コッコー etc.) ですね。ぶちうまいです!自分の好きなものだけを書きましたが、他にもたくさんあります。私の家は親が漁業をしているので、特に魚はよく食べました。自分は、おちょぼ口のハゲが一番好きです。おかげ様で、頭はバカじゃが、体は丈夫です!こうして祝島の恵を受けて育ち、今もその恩恵を受けています。ありがたい事です。

今、島では、超高齢化が進み、原発問題、昨年⁰の⁰台⁰風⁰の⁰被⁰害⁰、そして漁協の問題と、次から次へ問題が発生しており、気になっています。秀人(編集長)が、昨年台風の後ホームページに、『「どこもかしこもわ⁰わ⁰へ⁰い⁰じゃ⁰が」と言いながら台風の後片付けをされていた。「わやわへい」の「わへい」とは「和平」平和を意味するのでは?』と書いていましたが、編集長もたまにはえい言を書きます(笑)。このような問題(わや)の後に平和(わへい)が祝島を訪れることを願うばかりです。(少しのんきな考えかも知れませんが・・・)

そして、祝島ネット21を通して祝島のために少しでも恩返しが出来ないかと考えています。定年後(リタイア後)は、ぜひ祝島で元気に暮らしたいものです。会員の皆様、また祝島でお会いしましょう!!



たぶん3歳頃。後ろは江尻の波止です。

<連載> 『聞いてみん菜・食べてみん菜』

祝島懐かしの料理(8) ~イモの煮干(失敗編)~

祝島・食べてみ隊

子どものころ、祝島から煮干が届くと、よく火鉢やストーブで焼いたものです。表面に焦げ目がつき、ぷくぷくと膨れだすと、家の中には香ばしい匂いが立ちこめて……。思い出すだけで、自然とつばもわいてくるほどです。

今でも煮干はよく見かけます(関東ではほとんど茨城産)が、昔食べていた物とはどうも違う。子供のころ食べた、あの飴のようなじっとりした煮干が食べたい、そう思って今回は煮干に挑戦しました。

サツマイモの種類としては、皮の白いアメリカ芋がいい、と教わったのですが、あいにく見つからず、試しに3種類のサツマイモを買ってきました。そして、

サツマイモを1か月ほど放置。

この間に甘みが増すんだそうです。左の2つが人参芋、右上の細長い3本が種子島紫、そして右下の丸っこいのが黄金千貫です。どれも3本ずつあったの



に、1か月置いていたうちに傷んだり他の料理に化けたりしてしまいました。というわけでこれだけで挑戦です。

皮をむく。

上の写真と逆になりましたが、左の3本が種子島紫、右上の赤っぽいのが人参芋、その下が黄金千貫。



煮る。



ここで大失敗をしました。祖母は煮干を作るときにはナベの底に藤の蔓をぐるぐる巻いた物を敷いていた、という話を母から聞いたことがあり、ということは蒸すんだなと勝手に思い込んでいました。そして、ここで煮るのか蒸すのか確かめられないまま蒸したのです。ところが本当は蒸すのではなく、「煮て干す」から「煮干」だったのです。

失敗した後で正確な作り方を教わりました。つまり、ナベに水をたっぷり入れて煮る。そして、煮あがった後はとろ火でぐつぐつ水がなくなるまで煮つめるということです。だから、祖母が藤の蔓を入れていたのは、多分焦げ付かないようにするためだったのだろう

ということでした。教えてくださった方のところでは五升釜を使って一日中煮るそうです。

また、好みで砂糖をたっぷり入れる人もいたとのことでした。

冷めてからスライスして干す。

祝島では「まいらせ」を使って干すそうですが、道具も場所もないので、網ネットを使ってベランダに干しています。



完成。

黄金千貫は切ったときは一個丸々大丈夫かなという感じだったのに、蒸し上がってみると傷んで黒ずんでいるところが多く、結局残ったのは左上の小さなかけらだけ。



そして、出来上がりはというと、煮るべきところを蒸したために、煮干というより芋のかりんとうのように、からっからに乾いてかたくなってしまいました。食べてみると、中では黄金千貫が一番水気が多く甘みが強い。人参芋はほくほくして、名前のおり人参の味。種子島紫が一番筋っぽくかたい感じでした。

【食べ方】実は私はずっと生で食べるか焼くかする方法しか知らなかったのですが、てんぷらにしたり、戻して煮てもおいしいと、最近教わりました。そこで早速試してみると、生のサツマイモを煮たり揚げたりするのはまた違った味わいがあったおいしい。甘みが強いような気がしません。切ってあくを抜く手間も省けるし。というわけで、早選手抜き料理のリストに付け加えました。



それにつけても、祝島産の煮干が特産品として出回ってくれないのが。自分で作ってみて、失敗してさらに思ったこと……。あのおいしかった祝島の煮干を、もう一度食べた〜い!

祝島大好き人間 (3)

祝島神舞神楽ファン 西田昌代さん

シリーズ第3弾は、東京の根性娘・西田昌代さんの登場です！ 西田さんは全日本郷土芸能協会にお勤めで、相棒の小松崎さんと共に神舞の取材をされ、昨年の秋には東京・池袋で「祝島の神舞・ビデオ上映会」を開催されました。自らを西田“太郎万”と称するほどの祝島ファンになってくれました。



祝島の三浦湾に上陸した西田太郎万（左）と小松崎次郎万（右）

皆様こんにちは。「東京四谷」という怪談の舞台でめっぼう有名な土地に住む「民俗芸能大好き」女、西田太郎万です。昨夏の「神舞」で祝島初上陸を果たし、たかが5日の滞在で「祝島大好き人間」の称号まで勝ち得た女、昌代太郎万です。こうして記事まで書くに至っては・・・もう、誰がなんと言おうと、祝島の中核に踊り出たと言っても過言ではなあああー

ーい！！ははは、すごいだろー！！！！

びわ茶をこれへ持てえ～！！！！

・・・さておき。

祝島の事を知ったのは・・・いつの頃でしたか・・・

「民俗芸能の素晴らしさを世にしらしめる」という一風変わった生業を持つ私、その夜もネット世界の芸能行脚にはまっておりました。そのうちふと、思い出した山口の芸能「岩国行波の神舞」。

「神舞・・・神の舞ですかあ～。う～ん、なんか、いい～」

その響きには特別魅かれるものがありました。他にもそんな名前を持つ芸能があるかもしれん、よし！と思いい立ち、そして・・・

「へえ、祝島・・・？あ、ハートの形してるー」

その日より「祝島」「神舞」と名のつくもの全て、夢中になって検索しました。4年に一度の神舞が今夏だと知るや、勝手に盛り上がりまくり

「運命だ」 違うから（笑）

折も折、お上からも何か企画をたてるとのお達しが入り、もうこうなっては

「本当に運命だ」 しつっこいよ（笑）

かくしてもう1人のビデオ制作者、小松崎次郎万に声をかけ、共に祝島上陸。秋には上映会を開催したのです。

チャララ - ラ・チャ - ラララ・ドンドン

上映会はお陰様をもちまして大盛況！これもひとえに祝島を愛する皆様のご協力あってこそです。本当にありがとうございました。千年前の出会いが、時を越え新たな出会いを生み出してゆく・・・「神舞」の恩恵って、本当はこんな所にあるのかもしれないね。

神舞2008こそ、ビール片手に神舞小屋で芸能三昧に走ります（笑）ええ、もうビデオ片手に右往左往、台風にやられカメラ故障、夜明け前に起きスタンバイ、でかいフナムシにビビってダーッシュ！！なんて神舞トライアスロンな真似は決して、決して・・・しない・・・ハズ・・・いや、しないんだー（笑）！！

その折には是非お気軽に・・・「いよッ、太郎万！」などとお声掛け下さい。

待ってまーす！



「いわい」をバックに

全日本郷土芸能協会のホームページ

URL <http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~jfpaa/>

< 特別寄稿 > 祝島中・野球部再創設史 『君の瞳は100万ボルト』

～ 第4話 祝島中ここにあり！ ～

祝島中学校教員・松村文彦

3月になり練習試合がやってきた。合同チームの滑り出しはすこぶる鈍い。10月の新人戦で出来ていたことはまるで出来なくなっていた。ボールを使わない練習の期間こそ長かったものの、ここまで初歩的な段階に戻っているとは予想だにできなかった。だが、一度身につけていた技術。辛抱して反復練習すれば必ず近いうちに元の動きが出来るはずだ。我々は春の県体熊毛郡予選に標準を合わせることにして、とりあえず、田布施近郷大会を新チームの小手調べとして位置づけることにした。

当たって砕ける！の一回戦、我々は玖西支部代表の周東中学校と対戦した。何？代表だと？どういふこと？と思われた方も多いであろう。田布施近郷大会は前年の10月行われた近郊の各支部新人大会優勝チームと熊毛郡内のチームしか参加資格がないのだ。つまり郡内の中学校はどのようなレベルでも近郊の強豪チームと対戦できる仕組みになっている。まさに当たって砕ける！だ。上関中・祝島中合同チームのエースはこの試合は非常に調子が良かった。試合が終わればなんと相手打線を零封に抑えているではないか。試合は2対0で勝った。予想以上の試合運びだった。試合の時期になってチームに初めて勝つ雰囲気生まれた。いい流れに乗ったままチームは2回戦の柳井支部代表の由宇中を3対2で下し、そのまま準決勝戦に進出していった。

準決勝は光支部代表の島田中。ここはディフェンス力、特に投手力が高いチームとしてその名をとどろかせている。先制点こそ取ったもののその後はなかなか打ち崩すことが出来ない。合同チームのピッチャーも疲労の影響か、いつものピッチングが出来

ずに2点を献上してしまった。明らかに流れは島田中に傾いた。このまま試合が終わりそうな雰囲気。チーム内には「あのピッチャーはどうしたら打てるんかねえ」といった会話もちらほら。しかし、必ずしもいいピッチャーが毎回いいピッチングができるとは限らないのが野球だ。事件は4回裏に訪れた。相手のミスやフォアボールなどでノーアウトフルベースという絶好の機会を得たのだ。迎えるバッターは祝島中の臨時部員。こんなときにこんな場所に立てる彼をうらやましく思う余裕など誰にもなかった。そして誰もが見守る3球目、ドラマは起きた。彼が思いっきりひっぱたいた打球はセカンド後方に向かって飛んでいっているではないか。セカンドが下がる。ライトが前進する。センターが大きな声を張り上げる。観客は「落ちろー！」と「捕れー！」の大合唱。長い時間だった。時間がこれほど憎かったことは私の記憶にはない。セカンドとライトが重なった。ボールは消えた。観客の目は双方のグローブに。取ったのか？落としたのか？グラウンドにいる人の注目を一斉に浴びながら、センターが崩れ落ちた。ふと視線を一塁にやると、ベース上で意気揚々と右手こぶしを空いっぱい突き上げる祝島中の生徒がいた。ヒットだ！逆転だ！祝島だ！我々の悲鳴は奇声に変わった。あのピッチャーから2点取ったのだ。しかもヒットで。この試合目2本目のヒット。それは紛れもなく我がチームを勝利に導く逆転タイムリーであり、彼が産まれて初めて放つヒットでもあった。

決勝戦で熊毛支部代表の田布施中に負けはしたものの、我々は堂々たる準優勝だった。十分に上関中・祝島中合同チームの存在感、しいては祝島中の存在感を存分に見せ付けることのできた大会だった。「よお9人で勝ったねえ」とか「逆転打を打ったのは祝島の子なんと」「祝島の子はすごいねえ」などと言った言葉をよく耳にした。私は勝利の余韻と共に祝島の誇りのようなものを感じた。けれども一番誇り高かったのは祝島中の選手2人であつたらう。今回の経験は今後の人生を過ごしていく上での大きな自信となるはずだ。

祝島中ここにあり！

< 第4話 完 >



大活躍の祝島中・野球部員&臨時野球部員



前回の花*花クイズの答えは、ヒキオコシです。

腹痛で倒れた旅人を「引き起こした」とされる弘法大師の伝説にちなんでいます。

胃弱の人に乾かして、煎じ液を飲ませ続けたら、食欲が増し元気になったともいいます。健胃剤として、今も健在！（シャレになりませんか？）

戦時中、ヒキオコシを粉末にしたものが、「延命草」という名前で広く販売されたようです。お腹が痛いときに、煎じ汁を飲まされ、あまりの苦さに、顔しかめた経験ありませんか。

さて、今回の花は？

暖かい祝島ならではの花です。普通は、4月ごろなのですが、祝島では12月には花開きます。しかも、露地で。霜が降りない証です。



Let's Learn English in Iwaishima !

岸本 智恵美

Part1. Dennis's first visit to Iwaishima (11)

Earthquake!

Yes, Some of my friends were in Thailand. One of them was hurt by the tsunami in Koh Phiphi island. But they were lucky and safe. How can we coexist with nature?

(はい。僕の友達がタイにいて、その中の一人がピピ島にいて、津波の被害に遭ったんです。でもみんなラッキーなことに無事だったんだよ。僕らはどうやって自然と共存すればいいのかな？)

Dennis
(デニス)



I was very surprised and shocked by the huge earthquake and tsunami in Sumatora. The scale of damage is incredible. I feel very scared because nature is sometimes awful.

(わしゃあスマトラの大けえ地震と津波のニュースにたまげたんで。被害がおっけえのがおとろしいのや。わしゃあ自然が時々すごいけで、おとろしいだい。)

Fumi-chan
(フミちゃん)



祝島フォトコンテスト受賞作品の紹介

昨年6月から10月に開催した「第1回祝島フォトコンテスト」。前号でもお伝えしましたが、募集作品数は「神舞」部門が58点、「自由作品」部門が75点、合計で133点でした。10月18日に審査委員による審査会を行い、各部門の金賞1点・銀賞2点と審

査員特別賞が決まり、10月31日に祝島万葉祭の会場にて島民の皆さんの投票によって島民特別賞が決定しました。

今回は全受賞作品を紹介します。

[審査委員] 藤本自生、橋部好明、國弘秀人

「神舞」部門

金賞



「なかよし」
岡町 隆昌 様
(山口県柳井市)

銀賞



「我海よ！」
小嶋 睦治 様
(山口県山口市)

銀賞



「海上パレード」
吉原 妙子 様
(山口県由宇町)

「自由作品」部門

金賞



「龍の道」
財田 知裕 様
(広島県福山市)

銀賞



「さあ二人で仕事だ」
前川 香代子 様
(山口県山口市)

銀賞



「日本一 棚田の石垣」
松本 南樹雄 様
(広島県広島市)

審査員特別賞



「見送りのシャギリ隊」
黒沼 一之 様
(山口県周南市)



「風流」
村岡 洋臣 様
(広島県大竹市)



「オッパイ如何？」
広政 吉隆 様
(山口県柳井市)

島民特別賞

受賞作品は、「祝島フォトコンテスト」の
ホームページにも掲載しています。
<http://www.iwaishima.jp/photocon/>



「入船の朝」
高尾 恭子 様
(広島県広島市)



「石積みの島「風との斗い」」
道源 寿 様
(山口県周南市)



「島の印象」
山田 勝史 様
(福井県福井市)

入選



「入船神事」
相本 悦子 様
(山口県下松市)



「舞う」
内山 和則 様
(山口県周南市)



「島の祭」
中村 信明 様
(山口県下松市)



「祭りの朝」
荅 美津子 様
(兵庫県伊丹市)



「神迎へ」
向井 昌彦 様
(広島県大竹市)



「入船」
山本 善隆 様
(山口県周防大島町)



「路地」
中島 義博 様
(広島県福山市)



「練り堀・海・石段」
佐々木 宏行 様
(神奈川県伊勢原市)



「正午の影道」
道源 隆子 様
(山口県周南市)



「祝島凝縮」
上久保 嘉光 様
(奈良県奈良市)



「学校へ登ろう！」
三國 寿子 様
(東京都多摩市)



「石積の堀」
山本 昌子 様
(山口県周防大島町)

活動紹介

「2005年版祝島カレンダー」ができました。



毎年恒例の「祝島卓上カレンダー」を、今年も制作しました。今年のタイトルは「祝島の神舞」です。会員の皆様には、すでに年末までには届いていると思います。1年間どうぞご愛用ください。

今年は前ページでも紹介した祝島フォトコンテストの「神舞」部門の受賞作品を中心に構成しました。やはり神舞は“せえがえい”ですね。

お知らせ & 募集

12月末から会員メーリングリストのアドレスが変わりました。

昨年末にレンタルサーバの会社を切り替えた関係で、メーリングリストのアドレスが下記のように変更になりました。古いアドレスはすでに使えなくなっておりますので、メーリングリストに参加されている皆様はご注意ください。

旧 inet21@iwaishima.jp 新 inet21@ml.iwaishima.jp

尚、今まで参加されていなかった方で、新たに参加されたい場合は、事務局の國弘 (kunihiro@iwaishima.jp) までご連絡ください。

祝島の古い写真のデジタル化作業にご協力ください。

祝島の歴史を研究されているマーチンさんから、「3月にイギリスに帰国するんだけど、祝島の古い写真をデジタル化してCDに保存して持って帰りたいので、協力してもらえませんか」という相談がありました。当会としてもいつかやろうと考えていたので、この機会にマーチンさんと共同でデジタル化作業を進めることにしました。

2月から島内に回覧を廻したりして、島の皆さんに写真を提供していただくと考えておりますが、会員の皆さんからもご実家や親戚などに連絡して、古い写真を探してみてもらえるようお願いしていただけると助かります。スナップ写真などでも、背景に貴重な風景や建物が写っていたりすることもありますので、とりあえずどんな写真でも受け付けています。

尚、デジタル化作業は3月から本格的に行う予定です。ご協力よろしく申し上げます。（写真を郵送される場合は、祝島ネット21事務局・國弘まで）

編集後記

皆さん、新年明けましておめでとうございます（1ヶ月遅れですが・・・）。祝島ネット21も創設から5年目に入りました。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

昨年は本当に災害の多い年で、年末最後の最後になって、スマトラ沖大地震による津波で甚大な被害が出て、現地では本当に大変なことになっていますね。祝島でも台風の復旧作業、いまだに続いています。今年は明るい話題の多い年になって欲しいものです・・・というか、明るい年になるように頑張りましょう！

さて、今回は会員リレーコラムに同級生の松村くんが登場しました。松村家に彼の昔の写真を見せてもらいに行きましたが、彼が3歳の頃は、まだ中波止が出来てなくて、オカベの前も浜だったんですね。僕の記憶には全然無いのですが・・・。子供の時の行動範囲が狭かったからでしょうか？当時の僕の行動範囲はたぶん、ヒラギと善徳寺から石井の波止までの縦の道筋、今井波止、スイサンカくらいまでだったのかも知れません。考えてみたら、保育園に行くのも海岸の道を通らずにヒラギから中郷（唐木～タロイ～出田のパン屋の裏）を歩いていったように思います。昔の写真を見ていると、新しい発見が一杯あって楽しいですね。これから祝島の古い写真のデジタル化作業が始まりますが、どんな写真が出てくるか楽しみです。次号は4月発行の予定です。お楽しみに。（編集長：國弘秀人）

事務局では会員の皆さんからの投稿をお待ちしております。ご意見・ご感想・身近な情報など、お気軽に投稿してください。祝島ネット21では随時会員を募集しています。

《発行》 祝島ネット21事務局
〒742-1401 山口県熊毛郡上関町祝島
ホームページ <http://www.iwaishima.jp/inet21/>



平生町・大星山から祝島（正面沖側）を望む